

北九州市議会議員 大久保むが 市政レポート かから版

第二十九号

大久保むが事務所

北九州市八幡西区則松二一九一
TEL 〇九三—八六三—五五三〇
FAX 〇九三—八六三—五五三一
http://www.mugamuga.net/
E-mail yahatani@sh@mugamuga.net

交差点から北九州を変えよう！ 56%が交差点に関わる事故

最近、地域の交差点に注目しています。というのは、北九州市の交通事故は年々減少傾向にあるのですが、調べてみると交差点での事故は何故か若干増加していたからです。

平成27年の統計では、本市の交通事故件数は8,075件だったのですが、横断歩道付近がプラス8件、左折時プラス8件の242件、右折時プラス16件の637件と、市内の交差点付近の事故件数が増加しているのです。

本年7月時点の対前年比では全体的にかなり減少しているようですが、本市の交通事故の56%が交差点及びその付近で発生しているという事が分かってきました。

私のところにも交差点の改良や安全性の向上を求める相談が相次いでいたこともあり、こうした問題に着目し、取り組みを始めました。グリーンベルトや路面標記の明確化はもちろんのこと、交差点での右左折時や、歩車分離にすることでかなり改善されてくる事が分かりました。

時間と費用が節約できる右折ボケット

愛知県では15車幅右折ボケットという事業を行っています。本来であれば右折レーンは交差点付近の用地買収を行い、車線を増やすことで右折レーンを設けるのですが、用地買収にかなりの費用が掛かることから、実際に事業を行うとかなり長い時間がかかってしまうことが多々あります。時間と費用を削減するために、歩道が広げれば歩道を若干削ったりして15車幅の直進と右折スペースを確保しようというものが15車幅右折ボケットで、本市でも広幅員という名称で時々見かけます。ただ本市で広幅員を行うのは事故が発生した場所などに限られているとの事です。事故はどのような状況で発生するかわかりませんが、交差点での事故は歩行者が巻き込まれる恐れがあると同時に、命に関わる問題です。こうした交差点で事故が起これば、歩車分離信号、

15車幅右折ボケットなど、事故を未然に防ぐ交差点の改良を議会で訴えて参ります。

一、国道三号瀬板二丁目十五番付近



通行に際し右折車が多く、後続車の急ハンドルや急ブレーキなどで複数のドライバーから何とかならないか、との指摘。中央分離帯があることから、これを活用して右折ボケットの設置が出来ないか、検討してもらいます。

二、永大丸ダイレックス前の交差点



この交差点は、絶えず歩行者や通行する人が多く、交通量が多い割には信号が設置されていません。現在市へ信号設置への要望をし、警察へも要望を行っています。一刻も早く歩行者が安全に通行できるように改善を急ぎたいです。

三、光貞小学校入り口交差点



地元の方や地域の方たちから小学校前の交差点の安全性を高めてほしい、という声があります。これまでの経過を聞き、歩車分離の導入を図り、子どもたちを安全に学校に通わせたいと市へ要望を行いました。同時に福岡県警へ同様の要望を行い、検討に入ってもらいました。安全に通学できる環境が整うまで、市へ訴え続けます。

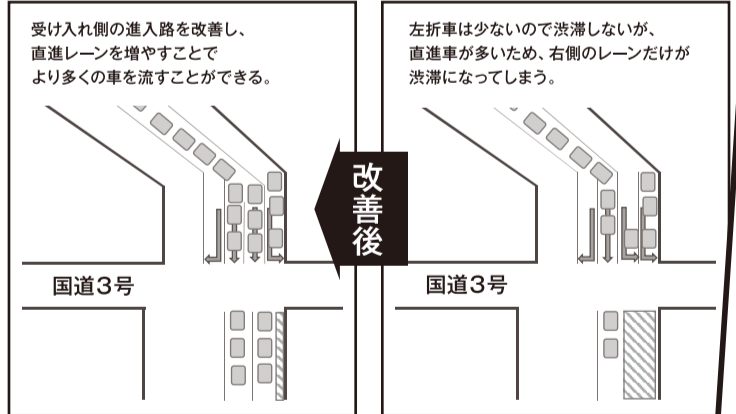
四、筒井町交差点



黒崎跨線橋から国道3号、200号へとつながる筒井町交差点では、交差点の出口が左折2車線、直進1車線、右折1車線となっており、左折する車が少なく割りに車線が多くあり、ラッシュ時に車線が直進する車で大渋滞になってしまっています。

この左折の1つを直進レーンに変え、200号側の受け口を2車線受け入れるように改善することで、現在発生している渋滞の緩和につながるかと考えます。現状を市へ伝え検討してもらった結果、現在市と福岡県警とが協議を始め、改善へ向けての動きが始まりました。皇后崎方面からクラウンパレス方面に向かうドライバーにとって良い結果が得られると思います。

筒井町交差点改良のイメージ図



寄付のお願い

大久保むが応援団では議員の活動支援のため、個人寄付と応援団「絆クラブ」の2つの方法でご協力をお願いしております。活動資金が厳しい中ではありますが、様々な工夫をしながら皆様により多く市政に関わる情報をお伝えしたいと思っております。頂きました浄財は皆様に市政の情報をお伝えする市政レポートの発行に活用させていただいております。ご協力いただけます方は、下記2つの方法から選んでいただき、お支えを賜りますようお願い申し上げます。



金額の指定はございません。頂いた浄財の想いを受け、政治活動に活用させていただきます。

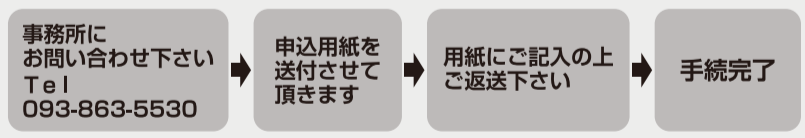
① 個人寄付

ゆうちょ銀行
・記号:17410 ・口座番号:83659011 ・名前:オオクボムガオウエンダン (他金融機関からのお振り込みの場合)
・店名:七四八(ナナヨンハチ) ・店番:748 ・種目:普通預金 ・口座番号:8365901
福岡ひびき信用金庫
・店名:折尾支店 ・口座番号:1202105 ・名前:オオクボムガオウエンダン

② 絆クラブ

毎月一口1,000円～の寄付をいただき、政治活動を安定的に行うことができるようにするため、特定の企業や団体・特定の有力者からしがらみを受けることなく、幅広い皆様からの浄財を頂くことで、自由な政治活動が出来ることを目指しております。申込用紙は大久保むが事務所からお届け致しますので、下記までご連絡をお願い致します。

〔申込方法〕



※ ご寄付を頂きました皆様には、年1回の用途のご報告をさせて頂いております。

活動記録

月	日	内容
四月	四日	北九州市立大学入学式
	五日	党県連企業団体委員会 新図書館開館式
	九日	党県連広報委員会
	十日	北九州市民寄席
	十一日	北九州都市協議会
	十四日	経済連都市協議会
	十五日	政治推進委員会
	十六日	まちなみ推進委員会
	十六日	福岡九区総支部常任幹事会
	十七日	折尾西小学校PTA総会
	十七日	的場池弓道場開設記念弓道大会
	十七日	北筑野球場後援会総会
	十八日	熊本震災ボランティア
	十八日	企業団体委員会(子ども食堂)視察
	十八日	党県連 広報委員会
	十九日	北九州交響楽団定期演奏会
	二十日	G7エネルギー大臣会合歓迎レセプション
	二十日	党県連 青年委員会
	二十日	みかんの家で竹飯(キッチン)
	二十日	市議会経済委員会 視察
	二十日	折尾西まちづくり協議会 総会
	二十日	折原ふれあいまつり
	二十日	福岡九区総支部常任幹事会
	二十日	ギラワン北九州 応援
	二十日	ウーミングカフェ北九州開所式典
	二十日	大久保むが政経セミナー
	二十日	経済連青年委員会
	二十日	企業団体委員会(子ども食堂)視察
	二十日	連合福岡青年委員会政治セミナー
	二十日	黒崎川はたはる祭り
	二十日	八幡西区議員協議会
	二十日	熊本県南阿蘇村へ災害ボランティア
五月	一日	古典落語を守る会 理事会
	一日	九州国際大学野球部 部長への表敬訪問
	一日	労働組合新人研修 講師で講演
	一日	北九州市民寄席
	一日	党県連 青年委員会
	一日	六生市民センター文化祭
	一日	古賀ゆきひろ選対本部会議
	一日	地域クラウドゴルフ大会
	一日	津の森サポーター農園事業
	一日	本会議
	一日	本会議
	一日	本会議
	一日	福岡九区総支部常任幹事会
	一日	市政報告会
	一日	九州国際大学同窓会
	一日	党県連 広報委員会
	一日	北九州市港建設協会総会
	一日	党県連 広報委員会
	一日	基幹労働青年女性委員会懇親会
	一日	本城学童保育クラブ40周年記念式典
六月	一日	古賀ゆきひろ選対本部会議
	一日	九州国際大学野球部 部長への表敬訪問
	一日	労働組合新人研修 講師で講演
	一日	北九州市民寄席
	一日	党県連 青年委員会
	一日	六生市民センター文化祭
	一日	古賀ゆきひろ選対本部会議
	一日	地域クラウドゴルフ大会
	一日	津の森サポーター農園事業
	一日	本会議
	一日	本会議
	一日	本会議
	一日	福岡九区総支部常任幹事会
	一日	市政報告会
	一日	九州国際大学同窓会
	一日	党県連 広報委員会
	一日	北九州市港建設協会総会
	一日	党県連 広報委員会
	一日	基幹労働青年女性委員会懇親会
	一日	本城学童保育クラブ40周年記念式典
七月	一日	ダムセッター街頭キャンペーン
	一日	ムーブフェスタ2016
	一日	第四十六回消防ポンプ操法大会
	一日	カネエール発表会(養護施設卒業生の進学資金支援)
	一日	こどもたちの料理教室
	一日	献血ボランティア
	一日	参議院選挙集会
	一日	経済連青年委員会
	一日	県連企業団体委員会
	一日	響灘バイオマス発電所起工式
	一日	市民文化スポーツ局との勉強会
	一日	湖南四地区山笠競演会
	一日	北九州スタジアム視察
	一日	築地会 環境部会
	一日	党県連広報委員会
	一日	党県連青年委員会
	一日	連合青年委員会との意見交換会
	一日	党県連九区総支部常任幹事会
	一日	党県連広報委員会
	一日	PTA研修会
	一日	陣原祭り
	一日	九州国際大学サッカークラブ部 部長へ表敬訪問
	一日	九州国際大学サッカークラブ部 部長へ表敬訪問
	一日	全国若手市議会議員の会研修会(北海道)
	一日	「みんなの学校」上映会
	一日	聖幻会を応援する会

東京都豊島区要町 あさやけ子ども食堂～視察～

子どもの貧困が大きな課題となる中、その対策が急務です。本市では本年9月の補正予算の中で子どもの居場所づくり事業を行う事を明らかにし、小倉北区区民と八幡東区尾倉の2か所所で500万円を計上しました。

市内でもいくつかの団体、地域、NPOなどが既に子ども食堂をスタートさせています。

そもそも子ども食堂はどのような点を探り本市事業に活かせるよう、子ども食堂の始まりとされる「あさやけ子ども食堂」を運営する山田さんに話を伺ってきました。

あさやけ子ども食堂には、小池都知事(当時)は候補、現職の大田、岡田民進党前代表(当時)は代表、河村名古屋市長など、多くの政治家、行政の長が視察に訪れたとの事です。

「いろいろ来ますなあ」山田さんは子ども食堂をスタートさせた経緯からその取り組み内容まで詳しく教えていただきました。

あさやけ子ども食堂は月に2回、水曜日にオープンします。当初は山田さんの奥さんが自宅始めたパン屋さんのパンを、いわゆるホームレスの人たちに配布していたことから、東京都内のNPOネットワークの代表に子ども食堂をやってみてもらえないか、との声がかかったのが、子ども食堂をスタートさせた経緯だそうです。

子ども食堂は子ども食堂は子ども食堂ではない貧困食堂

「子ども食堂は子ども楽しい食堂であり、子ども美味しい食堂なんだ。」



子ども食堂はそれを運営するボランティアスタッフがエンジンで、そのボランティアが楽しくて美味しく料理はできない。また来る子どもも楽しくない。結果子どもは来なくなる。

子ども食堂がもし食へることに困っている子どものみの食堂だったとしたら、恐らく誰も来ないだろうし、目標をそこに持つていけるのか、成果を調べなくてはならなくなる。だからこのNPOでは目標をもったり、反省会などは行わない。

子ども食堂というものに先入観をもっていた私は、山田さんの話はまさに目から鱗でした。直感的に真実でもあると感じました。



税金の投入は結果が成果を求められるから

「税金を使えば必ず費用対効果を求められてしまう、それは本来の子ども食堂の意味とは違う…」確かに私たち議員の立場で言えば、税金が使われる事業に対しては結果(この場合全体に対してどのくらい食に困った子供たちが来たのか、本当に貧困状態なのか、など)を求め、行政は例えばアンケートや調査活動を行わなければならなくなってしまう。

こうしたことをやり始めると、子どもたちは来なくなってしまうと考えられます。

山田さんからは「貧困は隠す、隠れる」と呟き、税金でこうした事業を行う事に対して気を付けるように言われ、税金の支援が無くなったこの事業をやるのか? 成果を求められる方が本当に楽

しい子どもの居場所づくりに繋がっているのか? まさに山田さんが心配されているような状態で事業を行おうとしている本市は、この山田さんが言われた言葉の重さを受け止めなければならぬと感じます。

貧困が生まれる原因を考えるべき

今回の視察と合わせて、福岡県内で2か所、合計3か所の子ども食堂を視察しましたが、私たち議員や政治家が考えなければならぬのは、なぜ子ども食堂がこんなにも全国で増え続けているのか、という事ではないでしょうか。恐らく子ども食堂というのは貧困問題が臨界点に達し、見える形で現れたものだと思います。

景気が上向いているとか、有効求人倍率が改善しているとか、いろいろ聞こえてくるにも関わらず、その反対側で子ども食堂が増え続けているという状況について、社会にある問題は何か、その根本的な課題を解決することを真剣に考えなければならぬと思います。



インターンを経験して…政治家のインターンシップに参加して

貴重な体験とありました



緒方 祐介
私がインターンを始めたいきっかけは友人に誘われたことです。

また去年KBCのニュース番組でこのインターンの特集をしていてそれを観てこのインターンに興味を持ったのも参加したきっかけのひとつです。このインターンでは様々な活動をしてきました。黒崎駅での街頭活動、ユメみらいワーク、青政塾、青年委員会等に参加させていただきました。特に青政塾では普段見れない施設に見学できたり市長から直接北九州市の政策についてお話をいただけたりも楽しいイベントになりました。このような活動を通じて普段見ない政治の現場に立ち会えることができ貴重な体験となりました。これから社会に出たときに政治は切っても切り離せないものであり主権者の一人として政治に参加するときの判断材料になればと思います。

多くの体験ができました



末藤 潤也
私は大学の政策科学科という所に所属し、元々政治家の活動を

近くで見たいという思いがありました。そして機会に恵まれ、大久保市議会議員の元でインターンをさせていただきました。私たちは大久保議員から、様々な事を体験させていただきました。また、インターン企画をした団体によるボランティアという活動に関し、多くのアドバイスをいただきました。私の中で印象深く残っているのは、大久保議員が所属されている民進党の福岡大会です。代表候補が演説をするための大会でした。私はそこで某候補の演説を聞きまし。とても

熱い演説でした。私は政治家というものをおぼろげに分かっています。ただ、分かるための種をこのインターンで手に入れたと思います。そして、この種が芽吹くよう、大切に育てていきたいと思っています。

知らないことをたくさん経験できました



春山 真哉
インターン始めるきっかけとなったのは、同じ学部の先輩からの勧誘でした。その時、メディアを介さない情報を知ることができるというメリットを知り、とても興味をもったので参加することを決めました。大久保議員に色々な所へ連れて行ってもらう、様々な経験をすることができました。他にも、ボランティアというこのインターンを運営している団体が主催しているイベントに関して、数多くの指摘、アドバイスをいただきました。その甲斐あって、少しずつですが良いものが出来上がってきていることを日々実感しています。現時点で私が1番に残っている活動はユメみらいワークに視察に行ったことです。自身の知らない職業がたくさんあり、また、たくさんのお話を企業の方からお聞かせいただけました。政治のことは全然分かりませんが、それでも分からないなりに活動に取り組みむことで、様々な力を手に入れることが出来ています。これらの力を、これからの人生でフル活用していきたいと思っています。

政治を身近に感じました



小谷 勇輔
私がインターンに参加しようと思ったきっかけは、このインターンの運営団体に所属する友人に誘われたことでした。経済学部所属して、政治には全く知識と興味がない状態でしたが、世の中の動きに対して自分で考える力をつけたいと思い、参加することにしました。活動中、大久保議員と話をする中で、政治だけではなく経済などでの議員の考えを聞いてみると、今まで自分が触れたことのない内容ばかりで、いかに自分が無知であるかを知ることが出来ました。そして、本や新聞を読み、情報や知識をつける必要性を感じました。私が最も印象に残った活動は、北九州市におけるリノベーションまちづくりの研修に参加したこと。使われていない建物を改築することで、新たな付加価値をつけ、新しい事業を行い、まちの産業復興や雇用創出につなげるという考えが非常に面白く感じました。最初は、政治に対して自分には関係ないと思っっていました。ですが、このインターンを通して政治は身近なものだと自分と無関係ではないと感じるようになりました。だから、もっと知識をつけて自分なりの考え方を身につけて、政治に関わるために必ず選挙には行くべきだと思えます。



朝の街頭演説にて 毎週月曜日七時～黒崎駅前